山崎郷土報
No.51
53.6.1
兵庫県宍粟郡
山崎町教育委員会内
山崎郷土研究会
電話②2000

# 近世初頭の山崎藩（十二）

島田　清

## 二、池田輝澄時代（続十一）

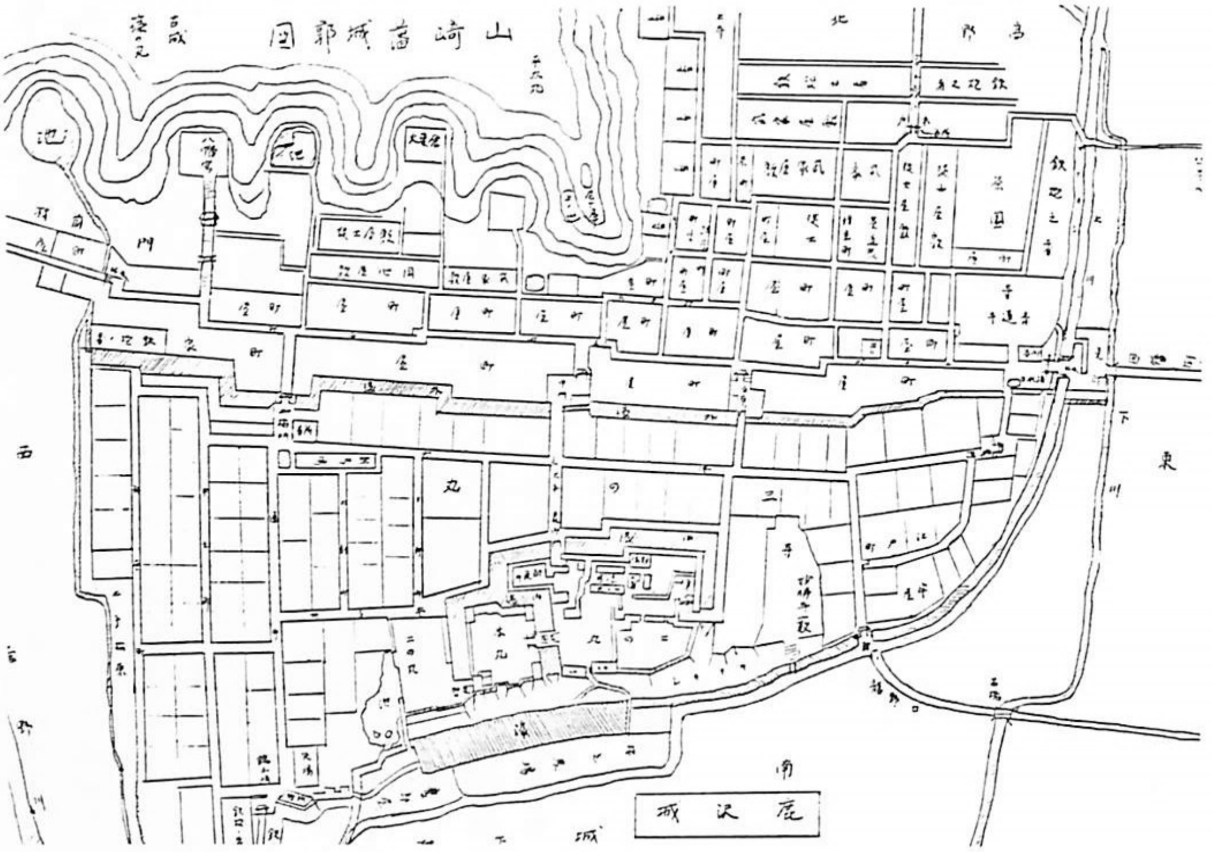
小笠原秀政の女、氏姫が、徳川家康の養女となって大阪玉造屋敷の蜂須賀至鎮へ入輿してから五カ月目、すなわち慶長五年（一六〇〇）五月に、会津の上杉景勝が兵を挙げた。いうまでもなく、石田三成と打ち合せた家康打倒の軍である。

家康は、さっそくこれを問責した。しかし、景勝は、服従せぬばかりか、かえって家康不臣の罪を挙げ、三成の蹶起をうながした。「天下分け目の戦」―関ヶ原合戦は、こうして起こされたのである。

このとき、蜂須賀至鎮は十六才であった。しかし、既に家康の女婿となっていたので、家康が六月十六日、大阪を発ち（タ）、会津討伐に東下するのに従った。父家政はもとより、阿波藩兵の大部分は徳島城下にいる。大阪屋敷の至鎮のもとには、側近の従臣わずかが居るばかりであった。こんな少人数で、果して、どれほどの戦力になるか、戦力という点だけからみれば大きな疑問であった。しかし、家康は、これによって、父家政を牽制（ケンセイ）できると算用していた。家政に対しては、大阪方から必ず手がのびるであろうし、家政も黙止しては居れまい。しかし、嫡子至鎮を帯同して東下すれば、少くとも、積極的な活動はすまい、―これが、家康の胸中であった。

## 目次

近世初頭の山崎藩……島田　清……一
福井詑二さんを偲ぶ……下村憲一……六
友の郷土の物語り……入江静夫……七
古く栄えた千種鉄について……松原　磐……八
ええことしちゃるではようこいやい……山田禎彦……九
史跡部だより……一〇
昭和年譜……一一
編集後記……一三



石田三成は、家康が東下すると、諸大老・五奉行、在阪諸将を説いて家康追討の軍を起こした。東海・東山・北陸の三道より攻め下る手筈である。

徳島藩大阪玉造屋敷の留守居高木法斎は、このとき命をうけて、手もとの兵をひきいて北陸軍に加わった。そして、加賀大聖寺城へ入った。しかし、こと急であったため、藩主家政の許可を得なかったのであろう。関ヵ原戦後、改易された。もっとも、このころは、「お家安泰」のために、いろいろの工作や措置がおこなわれた時代であるから、真相がどうであったかはわからない。ただ、西軍が敗北した以上、その命に従ったものが処罰されるのは当然である。蜂須賀家にとってしあわせであったのは、高木法斎が三成の命を奉じて出兵したから、同じ屋敷内に居た至鎮夫人氏姫が無事だったことである。細川邸で、忠興夫人（キリスト教名ガラシャ）が自刃したのとは大きなへだたりである。

これと時を同じくして、徳島城の家政のもとへは、秀頼の使者木俣半之丞がやってきた。このときの家政は、実に、むつかしい立場に立たされたわけで、切り抜けに

時計・めがね・宝石
**津村時計店**
中央通り・☎②0355

どれほど心魂を砕いたか、次に述べる経過が雄弁に物語っている。

家政は、まず、木俣半之丞に、家康追討処置に名分のないことを説いて反対した。同時に、家臣太田彦兵衛勝虎をひそかに東下させ、家康軍中の至鎮にこのことを知らせた。

半之丞の報告で、大阪方は、家政の反対を知った。しかし、家政と親しい前田玄以に秀頼の奉書を持たせ、再度、大阪城への出仕を求めさせた。ここにおいて、家政は心を決し、大阪に赴いて城中の諸将と会談した。藩士の中には、この登城を危ぶむ者もあったが、家政には、成算があったのであろう。結局、条件付で出兵を承諾した。すなわち、

〃反対意見は撤回する。ただし、既に老齢であり、かつ、病中でもあるので出陣できないが、国もとの藩士は自由に使ってもらってよい。〃

ということにした。

このとき、家政の脳裡に浮かんだ第一のものは、いうまでもなく至鎮の身の上であろう。もし、家政の大阪方寝返りが家康の耳に入れば、どのような処置がおこなわれるか、考えれば考えるほどむつかしく、予測できない。家政は、思案のあげく、少数の従者をつれて玉造屋敷を抜け出し、和泉国牧野にいる立安道通の家を訪ねた。そして、ここで剃髪し、蓬庵と号して高野山に登り、光明院に入った。立安道通というのは、家政の父正勝に従って戦死した渡辺与兵衛の子で、もと、吉蔵と称していた。少時より、叔父千利休に養われ、堺に住んでいたので、家政は召出そうとしたことがあったが、吉蔵は武家奉公を望まず、薙髪して立安道通と名乗り、町人としての生活を続けていたのである。家政は、これに魚屋の号を与えて目をかけ、ふだんから厚遇していた。大阪での苦しい立場を清算するには、ここへ駈けこみ、新しい生活を切り開くのが最良だという考えは、こうしたことから思いついたのであろう。

一方、徳島城下へは、秀頼の使者、小川越前守・小早川豊前（毛利輝元の家臣）がきた。そして、家政の意であるとして、大谷吉継・木下勝俊の手に属し、北陸へ出軍するよう、との命を伝えた。家老稲田示植・長谷川貞安らの重臣は已むなく子弟を人質として大阪城へ入れ、一方の兵

新才会ピアノ教室
山崎町庄能119の11
電話 ②３６８６

書道用品・結納用品
志水成文堂
山崎町さつき通り１丁目
☎ ②0547・4305

をひきいて九月十二日に兵庫へ上陸した。思うところのあった稲田示植は、このとき、病気と称して三日間全軍をとどめ、十五日になって進軍をはじめた。この日が、関ヵ原合戦の当日にあたっていたことはまことに奇しき運命といわねばならぬ。しかも、勝敗は、この日の午后にはっきりついた。稲田・長谷川のひきいる阿波藩軍兵が、この敗報を耳にしたのは枚方まで進んだときであったが、彼等は、そのまま兵を進め、近江草津で、家康に従っている至鎮に逢った。そして、その指揮下に入った。

関ヵ原合戦前後における家政・至鎮ならびに阿波藩の行動は、以上のごとく困難かつ複雑であった。それだけに、戦後の論功行賞もむつかしいものを含んでいた。家政は、当初、家康追討に反対したものの、結局、大阪方に味方し、兵力を提供したのであるから処罰の対象になるのは当然である。しかし、大阪城を脱け出し、剃髪して高野山へ入ったことによって、大阪方に盲従する意志のなかったことは証明されるし、一方、至鎮は、家康の女婿として東下した最初から、関ヵ原合戦の終るまで、一貫して忠勤を励んだ。このため、両者を相殺する、という処置がとられた。すなわち、家政は隠居して至鎮が相続し、所領はそのまま至鎮に与えられる、ということになったのである。

この後の蜂須賀至鎮は、いよいよ家康のために尽くした。家康が征夷大将軍に任ぜられた慶長八年（一六〇三）阿波に介在していた赤松則房領九千五百石と、毛利重政領一千石余を至鎮に与え、阿波一円、十八万七千五百石余を領することとしたのは、至鎮の今後に期待するものがあったためであろう。

関ヵ原合戦より大阪役までの十五年間は「武装的平和時代」と呼ばれるとおり、徳川方は自派勢力の拡張と豊臣方の押さえ込みに狂奔し、大阪方はこれを巻きかえすのに腐心した。各地の諸侯もこの情勢を反映して、城地の整備を積極的に進めたわけで、現存する大規模な城郭は多くこの時代につくられた。蜂須賀至鎮も、早く慶長七年の伏見城修理に材木を献じて以来、十一年の江戸城修理、十二年の駿府築城、十三年の篠山築城、十四年の名古屋築城、十八年の皇居造営、十九年の江戸城修築、と、連年、幕命による工事を手伝った。大阪冬の役は、この江戸城修築途中に起こ

食料品一切卸問屋
㊂寺田商店
山崎町紺屋町・☎②0005

和洋酒・食料品
城内商店
山崎町東鹿沢・☎②0369

ったわけで、家康は、さっそく工事を中止し、手伝にきていた西国諸侯に帰国を命ずるとともに、下知に応じて出陣するよう待機させた。至鎮も、九月十四日江戸出発、十月九日、駿府で家康に目通りし、急使を徳島に送って蓬庵の江戸出府を促した。家康は、大阪城攻撃に際して、福島正則・黒田長政・加藤嘉明など、秀吉恩顧の諸侯を出陣させなかったが、同じ立場から、蜂須賀蓬庵を人質として江戸にとどめようと考えたのである。

　国許の蓬庵は、この命を受けると、さっそく、数人の従者をつれて出発した。陸路は危ないから海路をとり、十月十五日、三河国吉田に上陸し、これより、東海道と江戸に下った。途中、相模国藤沢で西上する将軍秀忠に会ったが、秀忠は、蓬庵が、進んで人質同様の取扱に従ったことを喜び、江戸へ行くことを命じて進発した。

　一方、国許へ帰った至鎮は、家康の命令どおり鳴門を固め、通船を検問するとともに、十一月、全軍をひきいて大阪に出陣した。そして、江田ガ崎・仙波を攻めて、大阪城外郭の一部を崩した。このときのはたらきはまことに目ざましいものがあったので、秀忠は、元和元年正月十一日、至鎮に松平の称号を許し、家臣の殊勲者七人にも感状を与えた。

　やがて冬の役が終ると、蓬庵は許されて国へ帰った。続いて夏の陣が起こったが、このときは、大阪落城が急で、阿波軍は参戦できなかった。しかし、偶然にも長曽我部盛親を生捕る、という功績を立てた。家政・至鎮父子が、五月六日、伏見城に伺候し、家康・秀忠に戦捷の賀を申し述べたのは、両役の首尾が好かった証拠であり、同月二十一日、秀忠が、至鎮に淡路国を加封することを示達したのは、それを端的に裏書きするものである。

　元和三年九月五日、諸侯の大移封がおこなわれた。このとき、至鎮は、淡路国一円、七万百八十石余を与えられ、従来の封禄と併せて二十五万七千石余の大大名となった。

　秀吉の側近として、阿波国守にまでのし上っていた蜂須賀家政が、秀吉死後の転変期を何とか切り抜け、安泰の地位を得るのは、実際、並大抵でなかった。元来、「老功の士」といわれた家政であったからこそ、よく取り運べたのであろう。

　至鎮は、翌四年正月、「お壁書二十三カ条」を制定して阿淡両国に頒布し、両国太守としての施政に取りかかった。しかし、好事魔多しのたとえ通り、翌々六年二月二十六日、三十五歳で病没した。嫡子忠英は十歳になったばかりである。家督は相違なく与えられたものの、家

美術・工芸・画材
**いとう画廊**
山崎町出水町通り
☎ ②0371

政は後見を命ぜられ、中田屋敷から徳島城西ノ丸へ移らねばならなかった。

このとき、家政は、既に六十三歳になっていた。隠居の身として、静かに余生を送ろうと考えていたのかも知れなかったが、嫡子急逝という大ショックをうけ、嫡孫後見役という重大使命を与えられて、行政の第一線に引き戻された。至鎮が手をつけた藩政確立は当面の最重要事として残されている。そのうえ、寛永十四年に起きた島原の乱には出兵の命を受けた。至鎮の女婿で、岡山藩三十二万石の大守であった池田忠雄が、寵臣渡辺靭負を斬って逐電した河合又五郎と、それを助ける旗本三人衆との葛藤最中に急死したことも、蓬庵の労苦を増すひとつであった。寛永に入ってからの家政身辺は、とみに、多難さを加えた、といってよかろう。

寛永十一年、荒木又右衛門は伊賀上野で河合又五郎を討ち取った。これで、池田家懸案のひとつは解決した。又五郎の父又右衛門の池田家引渡は、のこる今ひとつの問題であったが、これは、山崎藩主池田輝澄の奔走で所期どおり、池田家へ引き渡された。この上は、「意趣なし」として追放しようとした輝澄は、やはり、ボンボン育ちの大名であり、いつ、どこで、池田家に不利な事件を惹き起こすかも知れないと「徳島藩預り」の処置をとり、国送りの途中に海上で処理しようと提議した蓬庵は、それだけの苦難を嘗めてきた「老功者」であった。『存採叢書』に

〃此又右衛門コト、始終六ヶ敷曲者ナリ。予預リ、国本へ遣べシ、トテ請取、則、家来ニ云付、道中、海路ニテ害、可レ捨由ヲ下知ス。〃

と簡単に記しているが、豊かな人生経験から割り出された〃読み深い洞察〃といわねばならぬ。

## 福井託二さんを偲ぶ

下村憲一

二月二十八日朝、福井さんの訃報を知らされました。私が福井さんを知ったのは遠く四十年前、昭和十二年七月七日、日支事変の勃発により十五日山崎町で初めての応召兵として出征された時でした。終戦を迎え福井さん一家は満州より引揚者として故郷へ帰り食料品店を始められました。それ以来同業者として十三才も年下ながらよく気が合ったのか特に親しくして頂きました。二十九年魚菜市場開設以来十余年間共に理事として市場発展に

務め四十三年私の病気を機会に二人同時に引退しました。福井さんはそれ以来家業は子息卓巳さんに譲られ悠遊自適、気のむくままに一人で県下の寺社は勿論のこと遠く奈良、京都の神社仏閣を尋ね歩き、趣味の古瓦の収集に没頭され、四十七年には「古社寺瓦集」なる立派な著書を発刊されました。又人一倍郷土山崎を愛され郷土研究会の役員として会報には毎号執筆されました。尚史跡因幡街道の道標を私費を投じて発掘し管理されましたことは町民挙って感謝している処です。

本年一月「明治代山崎地方里言葉百選寸言集」なる著書を自費出版され各方面に配布されました。これは山崎町に於ては実に貴重な研究資料です。二月初め著書の礼に伺いました処、少し歩行困難を訴えておられましたが十日程経てから福井さんが寝込まれ病い篤しとの報にてお尋ねしました処もう話すことは出来なくなっておられました。若い頃は色々と苦労をされたそうですが、晩年は誠に幸せなお方でした。いつもにこにこと笑を溢えた温顔をもう再び見ることが出来なくなりました。実に残念です。山崎町にとっても誠に惜しいお方を失ったものです。安らかなご冥福を祈ります。

# 友の郷土の物語り

入江静夫

宮本武蔵は播州の生れとも言われ、英田郡大原町宮本の産とも言われ、名は新免武蔵とも伝えられている。武蔵の父は無二斉、祖父を平田将監と言い、無二斉は武仁少輔正家と言い、竹山城主新免家の家老職となった人で、宮本に構を持ち道場もあり剣の道に勝ぐれ、城主より新免の姓を与えられ新免と姓を名乗ったので武蔵も新免武蔵と伝えられる。

無二斉は新免家より妻「政」を迎え二人の間におぎんと武蔵の二人の子があり、おぎんは竹山城の士、平尾与右ェ門に嫁ぎ、無二斉の妻お政は天正十二年に死亡したので、後に平福の利神城主であった別所林治の娘よし子を後妻に迎えたのである。武蔵はこの義母に育てられたのである。武蔵が七才の時父無二斉は死亡し、養母よし子は播州平福に帰り平福の田住家に再婚したので、武蔵は義母よ

純喫茶
エンゼル
山崎町山田・☎②0909

毎日の健康に
玄米入食パンを!!
松原商店
中央通り・☎②0077

し子を慕って度々往き来し、長逗留もしたと伝えられる。武蔵は十三才で有馬喜兵ヱと試合をして勝ち十六才の時但馬の秋山に勝ち十七才で関ヵ原の実戦を経験したが、自由の一人身でいたので武者修業を志して郷里を出て諸国を廻って剣の修業をなし、二十九才のとき船島で佐々木巌流を倒し名が天下に広がったのである。その後主として学問に打ちこんだようである。当時新しい学問が播州の地に発祥し、林羅山、藤原惺窩の学問を学んだようである。亦山崎闇斎の祖父の浄泉は播州山崎の生れで、木下勝利侯に仕え敬神家で学者であったので、これらの方に師事したのでないかとも思われる。

武蔵は剣聖であるとともに書画彫刻等の傑作も残し、多芸多能の士であったが、正保二年五月十九日熊本千葉城で六十二才で死亡したのである。

新免家の祖は藤原家の徳大寺大納言実孝公であり、実孝公の一子徳千代丸は時の帝に新免の姓を賜り新免七条少将則重と号し、則重の子は長重で長重の子貞重は赤松の一族宇野家貞の養子となっている。貞重の子宗貞、宗貞の子宗実は播州宍粟長水城主宇野政頼の三男で宗貞の養子で新免家を継いでいる。宗実は関ヵ原の敗戦で九州に落ちのび、城中の諸士は思い思いに散ったのである。武蔵は武者修業に志し郷里をこの頃出たのである。武蔵この時十七才である。

荒巻大明神の神主の太鼓を打つバチにヒントを得て二刀流をあみ出したと言う、その太鼓を引継ぎ現在も続け打つ三星大和守は私の学友で、小松信夫剣道八段の学友が宮本道場（建物十間に十五間で宿泊施設付）や武蔵神社を建てた代表者であると五十年目にクラス会をした際粟倉荘で郷土の説明をされた概要です。

和洋酒食料品販売
八百福商店
山崎町山田・☎②0413

和洋酒食料品｝卸問屋
三輪又商店
TEL②1173

## 古く栄えた千種鉄について

松原　磐

宍粟郡北部一帯千種奥谷波賀土万蔦沢各地の山陵に埋積している鉄残滓往古繁栄を極めた製鉄の遺物砂鉄滓はその量十数万屯に及ぶと推定されている。

この鉄滓も大東亜戦争中は有力な鉄資源として日鉄広畑製鉄所熔鉱炉に送られ役立ったのである。

千年を越える我が国で最も古い歴史を持つ播州鋼千種ハガネは非常に上質で誇りある多くの日本名刀を生み出し、その他馬具工具農具等昔の日本の鉄材は我が宍粟の地より多く産出されたのである。

砂鉄製造の始祖は揖保川を遡行して来た朝鮮の天日槍命によって伝授されたと言う説が根づよく伝えられている。宍粟の繁栄をもたらした貴重な資源は鉄をふくんだ山肌を切崩し鉄砂流しでより分けその砂鉄と恵れた多くの雑木を焼いた木炭を交互に溶解炉に入れ水車にうちわを付けたような足踏式フィゴを二人一組交替で三昼夜休みなく風を吹き込みその炎は色を増し熱を加えてよき玉鋼を造り出したのである。

この技術者を「村下（ムラゲ）」と呼び炉で出来た鉧りを更に「左下（サゲ）」と称するたゝら鍛治職人により銑鉄に仕上げられ鋼材として産出されたのである。

長年月あまり進まなかった日本の製鉄技術は千年余の歴史を持つ播州鋼千種鉄に依って上質玉鋼はその名声を日本全土に響かせ重宝がられたのである。

今日昔の千種玉鋼が見直され評価が高まっているゆえんも我が宍粟郷土の誇りとして歴史を飾る一頁にかぞえられている。往古の鉄山経営は財力を持つ業者が代官所の認可を受けて請負うかたちになり、その最も代表的なのは大阪泉屋、現在の住友金属株式会社の前身と言われている。

年を経て歴史と品質を誇った玉鋼の栄光は優れた商人により販路を拡げられその品荷は山崎町に運ばれ揖保川出石の川場より船積され川を下って大阪方面各地に送り出され、その当時の山崎町は鉄商売の基地として繁栄したのである。

今は宍粟の風土に埋れ昔を偲ぶ鉄滓は波乱に豊んだ歳月をそっくりで、のどかな宍粟奥地の表情を思い出す歴史の風景の遺物と言えよう。

株式会社
安井書店
宍粟郡山崎町山崎90
☎ 山崎②0700(代)

## 〃ええことしちゃるではようこいやい〃

山田禎彦

十年一昔という言葉があるが、いまは一年一昔といえるほどの変り方、なんとも住みにくい他人のことは知らんといったような利己主義な人があまりにも多くなっている。戦争という大きな試練は受けたが、ほのぼのとした人間味のある思い出をもっていることを私は幸福だと

楠風閣
農協会館 式場指定店
婚礼出張
堀口写真館
山崎中央商店街・☎②0934

思っている。もう四十年も前のこと福原町西組に谷口幹郎、三郎さん兄弟、塚田耕一さん、石野房夫さんの四人が住んでおられた。四人とも揃って好男子で頭のきれる方だった。兄を持たない私はこの四人を「兄さん、兄さん」といって慕っていた。

「ええことしちゃるではようこいやい」耕一さんに誘われて谷口さんの家にいった。この頃紙芝居の全盛期、三郎さんら四人が自作の紙芝居を披露、タイトルは「本日封切、高田の馬場の決戦」「コロラドの月」の二作、四人で変るがわる声色をつかっての弁舌楽しくみせてもらった。その後抽せんで自分たちの不用になった参考書やエンピツ、ノートなどをふるまってくれた。その時にもらった英語の辞書を海軍に入る直前まで大切にしていた。終戦復員して帰ってくると、塚田耕一さんのほかの三人は学徒動員や召集で戦場へ、石野房夫さんは二十年六月に南の島ルソン島で戦死、その他の方も帰らぬ人となっておられた。

高い天窓、太い梁を横にのびたシャフトと滑車、折々にベルトをパタパタと鳴らして動いていた精米機、店に入ると糠の香りがたゞよい、拭き込まれた框や帳場の竹畳、大福帳と大きなソロバンがいまもハッキリと印象に残っている。その谷口米穀店もいまはなく、その跡は山崎保健所に、そして現在は山崎専門店と山崎商工会になっている。その商工会の塀越しに背のびして右手をみると石野の兄さんたちの自慢の種だった裏庭が、そして無果実の木が見える。古びた家並み郷土をしみじみと見ることもいいが、それ以上に人々に良い思い出を残すような人になることを大切にしたいと思っています。

本町通りから山陽自動車の乗り場（現在の西信駐車場）まで一列に並んで日の丸の小旗を振りながら出征兵士を送った。そして間もなく新道路（現在の竜野山崎線の県道本条スタンドから農協倉庫の附近）まで戦死遺骨となって帰られた方たちを迎へに、暗雲たちこめる日が続いた。帰らぬ人となったこの人たちの脳裏には死の直前美くしいふるさとの姿がよぎったことと思う。国の繁栄のため人柱となったこの人たちのためにも生命を得ている一人一人もっともっと真剣に人々の幸福のために努力しなくては。中学生の自殺、恐喝、殺人などの報道される今日この頃を息の詰まる気持でいます。

「並び眠る兵士の墓や下崩ゆる」　東軒

## 史跡部だより

山崎郷土研究会に部制ができてから、早くも四年目になります。毎年三ヶ所に史跡の標示をしてきましたが、今年は次の三カ所に石柱標識を予定し、去る一月二十九日の総会でも、了承を得ましたことを御報告致します。いづれ五月末までに建立致したく、史跡部に於いて目下着々準備中であります。

一、史跡　山崎城中堀の跡

場所は下村記念館の付近を予定しています。

中堀は、内堀の北側中程から北に分れ、山崎藩の御勘定所（現在下村記念館のある所）の西側を北側へ廻り、東へ延び、山崎小学校校庭北端を更に東へ遠藤坂の上まで続き、南へ折れて東鹿沢と境した形になっています。

二、史跡　比地・金谷条里制の遺構

場所は城原中学校付近の適当な処を予定しています。

条里制とは、一三三三年前、孝徳天皇が大化の改新に際して行われた土地区画の方法で、当時班田収授法を施行するのに当り、まず基礎となる土地整備が行われ、その時の状態が、今日に残っているのであります。

三、史跡　聖山城の跡

場所は山崎農協河東支店の付近を予定しています。

聖山城は明応二年に、愛宕山の上に築かれ、下村則政の居城でありました。天正八年五月、羽柴秀吉は中国征伐に当って、まづこの山に本陣を置き、篠の丸城や長水城を陥れました。

愛宕山のことが、古書には多く聖山（ヒジリヤマ）とありますが、この愛宕山の麓にひぢりき神社という古いお宮があり、そのお宮の横の山ですからひぢりき山というのが、いつ頃からか最後のきを省略してひぢり山というようになり、聖（ヒジリ）山の字があてられた様であります。後に、愛宕山とふつうに言われ、時には樫木山といわれる様になると、しぜん愛宕山城とか、又は樫木山城と書いた本もあります。

尚、史跡部の幹部として、又当山崎郷土研究会会計監査として、多年ご活躍下さいました、船元の千本廉治氏が去る二月一日逝去されました。ここに生前に於ける同氏のご活躍ご功績を思い起して、感謝致しますとともにご冥福をお祈り致します。

# 昭和年譜

堀口春夫

昭和元年　山崎町戸数一、二三五戸、人口六、〇六五人

昭和二年　山崎小学校表門両側の堀埋立始める。山崎に初めてカフェー民衆出来る。活動写真盛んとなる。

昭和三年　上之町に南光坊別院建つ。荒神坂桜の名所

となる。最上山に前野善次郎翁の銅像建つ十一月御大典祝賀行事に町民賑あう。各町催物だんぢりを出し、辻にわか、芸者の手踊流し、旗行列、灯提行列等催す。婦人の耳隠しへャー流行す。学校北側の堀埋跡に塵芥焼却場出来る。此頃活動写真が来る毎に楽隊が賑やかに町廻りをする。

**昭和五年**　野施行の風習漸次すたれる。前野修二氏山崎町長となる。神姫自動車本町に出来、山陽自動車と対抗す。木工学校廃校となる。町にカフェー増える。料亭カフェに転向芸者漸減し女給漸増す。

**昭和六年**　金縮・巷に不景気風吹き、カフェーは蓄音機で流行歌を流し客を引く。艶歌流行盛んなり。

九月山崎町上水道完成す。祝賀行事に芸者の手踊り流し町を行く、九月十八日満州事変勃発。青年訓練所軍事教練盛んとなる。もぐりの人身売買口入屋往行す、農村疲弊窮乏す。

**昭和七年**　山崎小唄出来る。作詞野口雨情、作曲中山晋平、肉弾三勇士の軍歌流行、近年揖保川のいかだ流し漸減し、木材輪送、馬力、トラックに漸次切変る。

**昭和八年**　旧講堂を移築して武徳殿を建る。八月郷土研究会発足す、会報「しさは」第一輯発行す、工業試験場と改称す。十月山崎町国防婦人会創立す。

**昭和九年**　山崎小学校講堂落成す、南の角矢倉姿を消す。

**昭和十年**　山崎町軍友会創立、山崎町戸数一、三八五戸人口六、八七八人、泉竜寺の門庫裡道路となり蔦沢への道路開通す。寺の名松大木伐り倒さる。

**昭和十一年**　郷土誌の編纂、七月賀陽ノ宮殿下連隊と共に来崎さる。山崎町部落対交野球盛んなり、十一月共進会と共に小学校に於て郷土展覧会開催、歴史的珍品出品、書画、刀剣、多数。対篠荘東鹿沢に出来る。

**昭和十二年**　古城篠の丸、公園化し登山道つく、山崎歌話会、草の実会育ての親安田青風先生大阪へ行かれる。七月七日支那事変勃発す、在

漢方薬と食事指導
有限会社 ドラッグストアー ひがしや
山崎町中央通り・☎②0109

昭和十三年　郷軍人並に補充兵続々応召さる、九月初めて防空演習をす、福原町に診療所出来る。十二月南京陥落で町民灯燈行列をする。内堀北側の埋跡に報徳花園設営さる。七月阪神水害の被災地後かたずけに山崎より勤労奉仕隊応援に行く。

昭和十四年　四月米穀配給統制となる。九月ドイツ軍ポーランド進撃、第二次世界大戦起る。

昭和十五年　一月山崎闇斉ゆかりの地、山崎西鹿沢通町元闇斉屋敷跡に、京都闇斉神社垂加霊神の分霊を迎へ闇斉神社の分社を建立す。時に紀元二千六百年、大政翼賛会発会さる。

昭和十六年　十二月宍粟郡生活必需品商業協同組合山崎町本町に発足す。戦時中統制物資の荷受配給機関となる。米穀配給通帳制実施さる。十二月八日大東亜戦争はじまる。

鮮魚・料理仕出し
中村鮮魚店
山崎町中央通商店街
電話 ②2468(代)

カット＆パーマ
婚礼着付
水川美容院
山崎町役場前・☎②0590

昭和十七年　最上山に防空監視哨出来る。七月地方行政機関宍粟地方事務所元郡役所跡に出来る。前野修二氏初代所長となる。十月前野猛夫氏山崎町長となる。

昭和十八年　十月宍粟合同自動車の四社統合して宍粟貨物株式会社鹿沢に出来る。最上山の時の釣鐘応召供出さる。

昭和十九年　宍粟地方事務所焼ける。竜野土木出張所車庫より出火、元田村病院跡に移転、学童疎開山崎に来る。

## 編集後記

心配していた会報原稿も沢山投稿して頂いて春の部が出来ました。島田先生の近世初頭の山崎藩史もいよいよくわしく、当時外様藩の幕府に対する気づかいがよく伺われる。池田家もいよいよ宍粟騒動の大詰めに近づきつつあり、其のてん末の有様が期待されている。会報部も能筆家の福井詫次氏を失い手をそがれた様に寂しくなりました。筆まめな方だっただけにおしまれています。心より氏の冥福を祈ります。又会報の印刷代も上っていますので従来の会費ではこと欠きますので今回百円値上げ

じて三百円にさせて頂きました。それでもまだたりない様ですので広告をふやして補いたいと思っています。御了承お願い致します。三月には町内の史跡めぐりを致しました。郷土人として近くに住む者が知っておかねばならぬ史跡ですので、まだ外に気づかない史跡が有りましたら教えて下さい。時々近くの史跡めぐりもやりたいと思っています。五月には待望の大和旅行が有ります。奈良・法隆寺・吉野山など、人員に制限がありますのでお早くお申込み願います。

山陽興産株式会社
山崎事務所
山崎町鹿沢３３番地
☎②0466・②0883・②5889